

事例検討
褥瘡(じょくそう)のケア

症 例

- A氏 75才 男性 妻と二人暮らし
- 散歩中に道に倒れていたところを発見され、救急車で病院に運ばれた。脳梗塞と診断された。
- 麻痺等の障害は残らなかったが、入院中に肺炎併発し、1ヶ月間臥床となった。その間に仙骨部に褥瘡ができた。
- 入院が長期になり、睡眠不足や不安が重なり、A氏は退院を申し出た。病院の主治医は、褥瘡の治療を開始してから退院してはどうかと勧めたが、A氏と妻の強い希望で、退院することになった。



データ	
身長	165cm
体重	40Kg
TP	5.8g/dl
Alb	2.8g/dl
FBS	108mg/dl
CRP	3.8mg/dl

A氏の現状

- 院内では、車椅子を使用して移動。寝返り、起き上がりは柵につかまれば可能。A氏は家に帰れば、歩けるようになると思っている。
- 食事はベッド上
- 摂食量は以前の50%程度、義歯の調子も悪い
- 病院では全介助に近い状態
- 妻は、「家に帰ればなんとか(介護全般)なると思っている」
- 家庭の準備が整い次第、退院を希望している

グループワーク(30分)

- A氏の褥瘡の局所の状態について評価してください
 - 褥瘡の深さ
 - 褥瘡としての病期
- 退院後A氏と家族に対して必要だと思われる支援を挙げてください
- A氏の褥瘡に対する処置をどうするか考えてください
 - 時間軸に沿って必要なケアを考えるようにしてください

本事例の経過写真

